教育最前線 連載13

●おんが自動車学校・ドライビングアカデミー

原点に戻す教育により、企業ドライバーの安全運転意識の向上を図る

おんが自動車学校（福岡県遠賀町）は初心運転者だけでなく、企業ドライバーを対象にした安全運転教育に力を入れている。

平成20年度は約4000名の企業ドライバーや管理者が同校の研修（ドライビングアカデミー）を受講した。また、同校は全日本トラック協会および福岡県をはじめとする各県トラック協会の安全教育訓練施設として指定されている。

プロのドライバーに、大型トラックの運転に必要な知識や技術を再確認してもらう

ポイント① 卒業生の声を参考に教育プログラムを構築

おんが自動車学校が企業研修を開始したのは12年ほど前のことである。「最初はどのような教育プログラムにすれば、企業のニーズに合うのか模索している状況でした」と同校の力武浩一社長は当時を振り返る。プログラムをつくるにあたっては、同校で大型自動車やけん引の免許を取得した卒業生たちに話を聞いたという。

「免許取得の理由や、取得した免許をどう活かそうとしているかという根本的なところから聞き、仕事上の悩みがあれば、どうしたら解決できるか、一緒に考えました。こうした情報をもとに、ドライビングアカデミーの原型を構築していったのです」。

バックによるS字走行や方向転換など基本走行のトレーニングも行われる

ポイント② 基本を思い出してもらうことを重視

「施設・設備のハード面では専門的な研修施設にはかないません。そうした環境の中で、私たちができる効果的な教育とは何かを追求しました」。力武社長が導き出した結論は『原点に戻す教育』。受講したドライバーの運転姿勢から、仕事に取り組む姿勢にいたるまで、初心に戻り、基本を思い出してもらうことをドライビングアカデミーの教育目標としたのである。「基本を教えるということは、私たち教習所の強みでもあります」。

ポイント③ 受講者と共に指導者も学ぶ

「企業研修において、特にトラックのドライバーを指導する上では、指導する側の姿勢も大きな課題でした。経験や技術では受講者のほうが豊富ですから、初心運転者教育と同じ意識では通用しません。そこで、『共育―共に育む』をテーマに掲げました」と力武社長は話す。

企業研修を開始した当初は、受講者の側から学ぶことも多く、その蓄積が現在の指導に大きく役立っているそうだ。

「受講者とのコミュニケーションを通じて、指導する側も企業ドライバーの実態や業界全体の動向などを把握し、教育プログラムの改善に活かしています」。

将来の物流業界を担う人材育成にも取り組む

おんが自動車学校は、一昨年から希望が丘高等学校（福岡県中間市）で「交通安全教育・自動車教習講座」という授業を受け持っている。教習指導員が交通安全の知識や運転者としての良識、マナーを伝えるというものだ。

「授業の内容については高校の要望を聞き、私たちが提案しています。ここにも企業研修を通じて得た情報やノウハウを活かしています。今年度からは授業の中で運行管理者資格取得※をめざしています」と力武社長。これは全国初の試みで、物流業界を志望する高校生の就職活動支援が目的だという。

「初心運転者教育以外にも、教習所として社会に貢献できることは、まだまだあります」と力武社長は力強く語った。

※運行管理者＝道路運送法及び貨物自動車運送事業法に基づき、事業用自動車の運転者の乗務割の作成、休憩・睡眠施設の保守管理、運転者の指導監督、点呼による運転者の疲労・健康状態等の把握や安全運行の指示等、事業用自動車の運行の安全を確保するための業務を行う。自動車運送事業者（貨物軽自動車運送事業者を除く）は、一定の数以上の事業用自動車を有している営業所ごとに、一定の人数以上の運行管理者を選任しなければならない。

ドライビングアカデミー「貨物ドライバー習熟課程2日コース」の内容（一例）

1 エコドライブ

受講者に大型トラックで指定のコースを運転してもらい、その時の燃費を計測する。その後、ギアチェンジや停止時にアクセルを戻すタイミングなど、燃費を向上させる運転方法を教習指導員が説明。次に、それを意識して再度同じコースを運転して、燃費が改善していることを確認する。ガソリン車に比べ、トラックなどのディーゼル車はエコドライブによる効果が大きいため、コスト削減意識も身につけてもらう。

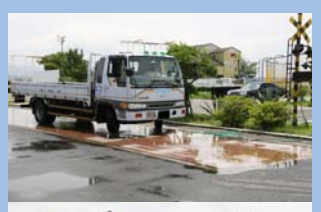
2 シートベルトの必要性

教習指導員が運転するクルマを約7km/hで、受講者が乗車している停止状態のクルマに衝突させる（希望者のみ体験）。受講者は全ての席でシートベルトを着用。衝突の衝撃を体験し、シートベルト着用の必要性を理解してもらう。教習指導員は「後部座席に人を乗せる時も必ずシートベルト着用を呼びかけてください」と伝えた。

3 夜間検証・夜間走行

日没後、対向車の前照灯の光の眩しさのために前にいる歩行者が見えなくなる蒸発現象を体験。また、コース上に様々な色の布をかぶせたパイロンを置き、夜間の見え方の違いを確認してもらう。最後に、照明を落としたコースを走行。その途中では、道路の脇から教習指導員が飛び出すなどして、夜間の運転で注意すべき点を伝える。

4 ブレーキング



緊急時に急ブレーキが使えるようになるためのトレーニング。すべりやすい路面を利用して行われる。「最近は大型トラックにもABSが普及しています。しかし、ABSがあってもブレーキペダルを強く踏み続けなければ、その性能は十分に発揮されません。また、力いっぱいブレーキペダルを踏むためには、正しい運転姿勢をとることが重要です」と教習指導員が説明。

5 講義

教習指導員がプロとアマチュアの意識や行動面での違いなどを解説し、プロのドライバーとしてのあるべき姿を考えてもらう。また、アルコールが運転に及ぼす影響や飲酒運転に対する罰則なども学ぶ。

読者の声

●丸森町 総務課 消防防災班（宮城県）
伊藤 淳さん

丸森町の消防防災班では、地域の方へ安全を伝える出前講座の機会があります。その際に、SJに紹介されている観察結果やクイズを講話の話題の参考にさせていただくことがあります。記事を使って、「道路交通法で決まっているルールなのに、実際に守っている人は少ないです。このような事故につながる危険があるのでしっかり守りましょう」というように注意を呼びかけています。

ルールを守ることは、交通事故防止のために大切です。それでも事故の被害にあってしまう危険があるので、自分は大丈夫と思わず、周りへの気配り、目配りをして事故を防ぐことが大切だと思います。

ご愛読者のみなさまへ

SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。

sj-mail@spirit.honda.co.jp